

茅ヶ崎市
公園愛護会の手引き



令和3年4月

《基本的な活動》

1 清掃（月1回以上）

公園愛護会の最も基本的な活動が清掃です。ごみが落ちて汚れている公園は、人によっては暗く感じたり、危ないと感じることがあります。公園愛護会の皆さんにこまめに清掃していただくことによって、明るく安心して利用できる公園になっていきます。

また、ごみが落ちていない公園にはゴミを捨てづらいという効果もあります。

◎公園愛護会活動ゴミの取扱いについて

公園愛護会活動で出たゴミについては公園緑地課で回収いたします。活動予定若しくは終了のご連絡を頂きましたら回収に伺いますのでご連絡をお願いします。

○可燃ゴミ

草、葉、紙くすなどの清掃ゴミはゴミ袋に入れてください。ゴミは一緒の袋でも大丈夫です。

○不燃ゴミ

公園に捨てられた不燃ゴミはゴミ袋にいれてください。入りきらない大きいものの場合まとめておいてください。

2 除草（5月～10月に4回以上）

除草の1番の目的は、雑草を取り除くことで公園内の見通しをよくし、公園の美観を確保することです。

除草を行うときは、鎌や根切コテなどを用いて、雑草を根ごと取り除くのが除草の基本ですが、雑草の状況や参加者の力量に合わせて出来る範囲で行ってください。

生育が活発になる春から夏にかけては、応援を募るなど、たくさんの人数で出来るだけ短時間に終わるように工夫をすることがポイントです。

3 植物の育成管理（かん水(水やり)など)

真夏の日照りが何日も続く場合は、公園愛護会で管理している花壇や植栽に公園の水道などを活用して水やりをしてください。

また、ツツジなどの低木の剪定や、地上から手が届く範囲内の樹木の枝下ろしなども出来る範囲内をお願いします。

4 遊具等の公園施設の点検及び破損発見時の連絡

公園内の遊具やベンチなどが破損したり、雨などによって砂が流されて大きな段差ができてしまう場合があります。

市では、月1回巡回パトロールをしていますが、合間に破損するなどで発見が遅れてしまう場合があります。破損等を発見した場合は、至急市までご連絡ください。応急処置（張り紙での危険告知など）をお願いする場合があります。

《準備・心得》

ここでは、活動の前の準備から公園愛護会活動の基本、地域コミュニティづくりやまちづくりにつながる花壇づくりやピーアールなどの活動の準備や心得について記載しています。

【活動の前に】

愛護会活動で最も重要なことは安全に活動を行うことです。準備を十分に行うことが、参加者自身だけではなく、公園利用者の事故やケガの防止につながります。

①ケガをしない服装で！

虫さされや日焼けを防ぐため、「夏でも長袖、長ズボン」で活動することをお勧めします。帽子をかぶると直射日光を避けるだけではなく、万が一、頭部に物がぶつかった場合でも衝撃をやわらげることが出来ます。

②水分を用意しましょう！

水分の補給をしないで活動した場合は、脱水症や熱中症にかかってしまうことがあります。活動前に水を一杯飲むとともに、活動が1時間を超える場合は、途中で休憩をいれるなどして、こまめに水分を補給しましょう。夏場だけではなく、5月頃から10月頃までの急激に気温が上がった日やその次の日も、特に対策が必要です。

なお、水分はお茶やジュースよりもスポーツドリンクの方が、水分補給や熱中症予防に効果的です。

③簡単な救急セットを用意しましょう！

除草の際などで、道具で誤って手を切ってしまうことがあります。また、道具を使わなくても、ちょっとしたことで手や足に怪我をしてしまうことがありますので、あらかじめ消毒液や絆創膏などの簡単な救急セットを用意しておきましょう。

④役割分担を決めましょう！

活動を始める前に、リーダーから「今日は何をどのようにするのか」を全員に説明し、役割分担を決めてから活動しましょう。役割や活動場所を明確にすることにより、活動を効率的かつ安全に行うことが出来ます。特に、新しい人、慣れていない人が参加する場合は説明を十分にしましょう。また、作業途中でも声をかけるなどの配慮をしましょう。

⑤体をほぐしましょう！

除草や清掃など軽い活動を行う場合でも、準備体操やストレッチを行い、ケガを未然に防ぎましょう。

【安全に活動するために】

①ハチにさされないために

ハチは黒や黒に近い色を見ると攻撃してくることがありますのでこれらの色の服や帽子をかぶるのは極力避けましょう。特に秋はハチが攻撃的になるので注意してください。 また、花の香りがする香水をつけることも避けましょう。

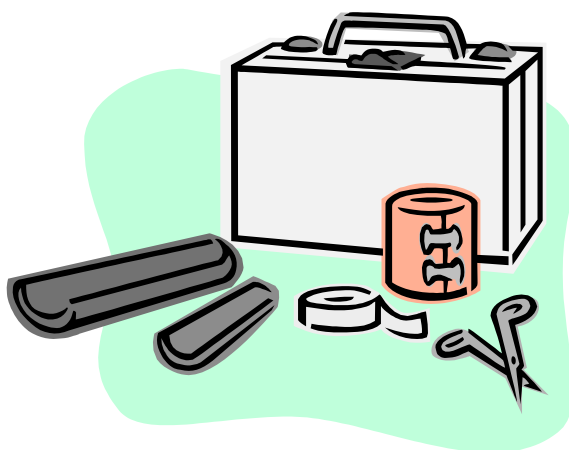
②熱中症にならないために

熱中症の予防には、こまめな水分補給が重要です。のどが渴いてから水分を取るのではなく、のどが渴かないうちに水分を取りましょう。特に大量に汗をかくときには、水分だけではなく塩分の補給が必要になります。塩分を加えた水や、スポーツドリンクを摂取することが適しています。

熱中症は暑さによる障害の総称で、体から水分が失われて、のどの渇き、脱力感、倦怠感などがみられます。さらに塩分が大量に失われると頭痛や嘔吐が加わります。

これが進むと全身の脱力感、血圧の低下、とり肌、寒気、筋肉に痛みを伴ったけいれんを起こします。対応が遅れると最悪の場合、死に至ることもあります。

少しでも異常を感じたら、木陰など風通しがよく、涼しいところで寝かせ、衣類をゆるめ、冷たいタオルなどで体を冷やします。意識がはっきりしないときには、大至急、病院へ行ってください。



《発展的な活動》

【樹木・草花の管理】

①中低木の管理について

植物は、きめ細かい管理を行うことにより、良好な樹勢を保つことが出来、毎年きれいな花を咲かせ、風の通りや採光が良くなることで、病虫害の防止になります。

木の枝をすき、高さを低くして見通しを良くすることで、安全な公園となっています。

しかし、むやみに剪定をしてしまうと花芽を摘んでしまい、花が咲かなくなってしまう場合もありますので、地域で知識や経験のある方の助言を得たり、または市にご相談ください。

原則、梯子や脚立などを使わずに手の届く範囲内をお願いします。

②樹木(高木)の管理について

樹木(高木)の管理は原則として市が実施します。

樹木を剪定する時期

樹木の管理は、適切な時期に実施しないと樹木を傷めてしまう恐れがあります。剪定に適した時期は樹木の種類などによって異なるため、原則としてそれぞれ適した時期に実施するようにしています。

◎樹の種類ごとの管理に適した時期(目安となる概ねの時期です)

○針葉樹：芽が出た後(7月頃)または冬(12月～3月頃)

○落葉樹：落葉した後の休眠期(11月～2月)

○常緑樹：新芽が伸び終わった後(5月～6月)と生長が休止する時期(9月～10月)

◆常緑樹と落葉樹の剪定時期の違い◆

クスノキなどの常緑樹は初夏から梅雨にかけて新芽を伸ばし夏場に一休みをするため、剪定時期を迎えます。真冬に剪定をすると寒さや乾燥によって害をうけてしまいます。

ケヤキなどの落葉樹は夏に生長の真っ盛りになります。このような時期に剪定をすると樹全体が枯れてしまいかねないため、冬季が剪定時期となります。

この様に、同じ公園の中でも常緑樹は初夏、落葉樹は冬という具合に季節ごとにわけて、剪定を行うことが好ましいのです。

*公園の状況を優先し時期が異なる場合があります。

【機械を使った作業】

機械を使っの作業は、効率的ですが、逆に危険性も非常に高くなります。そのためこれらの機械を使う場合は、機械の取扱いに熟知した人が指導を行うなど、安全確保に十分配慮することが必要です。まずは市にご相談ください。

【花壇設置と管理】

花壇作りは、公園が華やかだけでなく、ともに汗をかき、楽しみながら花壇の手入れをすることで、愛護会を中心とした地域の人たちのコミュニケーションの場となるとともに、「利用者が増え活性化する」「ゴミの散乱やいたずらが減る」「地域に活動をピーアールし参加が増える」といった効果が期待できます。

①公園の花壇は「みんなの花壇」です

公園は「まちの庭」であり地域の皆さん共有の財産です。公園愛護会で花壇づくりをする際も、「まちのみんなの共有財産」として「公園の利用者や周辺にお住まいの方の理解を得る」「参加したいと思った人が気軽にかかわることができる」といった気配りが大切になります。

②植える種類を考えて

植える植物は、香りが少ないもの、小ぶりなものからはじめ、地域の理解を深めながら植える種類を広げていきましょう。公園全体で植栽計画をたて、開花時期が違う種類を植える等すると、四季折々の様子を楽しむことができます。

③他の公園利用を妨げないようにしましょう

花壇を設置していると「遊びに夢中になった子どもが花壇に踏み込んでしまい花壇が傷んでしまう」ということが予想されます。花で公園に彩りを与えることも大切ですが、子どもがのびのびと遊ぶ場としての公園本来の役割も決して忘れないでください。花を植える場所を決めるときには、日当たりだけではなく、公園の利用実態を把握することも大切です。

◆公園での花壇づくりのポイント：人を集める◆

I 仲間に声をかけましょう

土作りや夏の水やりなど、花壇づくりには大勢の人手が必要になる作業もあります。

まちの「花づくり名人」のような方がメンバーに加われば、花壇づくりのアイデアや作業の内容などがぐっと本格的になります。また、町内会・自治会や老人会・子ども会、また、地域のスポーツチなどにも声をかけてみましょう。

II 看板作戦

実施日の2週間位前に、花壇の周りの目に付く場所や掲示板等に看板等を設置し、参加者を募集します。「当日飛び入り歓迎」方式にしておくと、当日に参加者が少ないようなことがあっても、公園に遊びに来ている利用者などに声をかけることで、参加者を確保できるという効果があります。

III 花壇づくりクラブ作戦

花壇作りが軌道に乗ってくると、水やりや花の手入れなど、通常の愛護会の活動と活動時間や回数が異なる作業が増えてきます。そこで、こうしたきめ細かい活動をやってもいいという有志を集め、愛護会の中に「花壇クラブ」をつくって活動してはいかがでしょう。

◆公園での花壇づくりのポイント：草花をいちから育てる◆

Ⅳ種をまく

花壇の土を耕し、ヒマワリやコスモスなどの種を蒔けば、育てるためのコストや、手間を省くことが出来ます。

例：ヒマワリ、コスモス、葉の花、マリーゴールド、サルビア、アサガオなど

Ⅴ花苗をみんなで育てる

公園愛護会によっては、花壇に植えるための花苗を、種を育てる、挿し芽を行うなど、自分達で育てているところもあります。

(方法1)

プランターやビニールポットなどを使って、種まきや挿し芽を会員の自宅で行い、花が咲き始めたら公園に植え付けます。

(方法2)

公園の一部に花苗を育てるためのスペースを設ける（→公園の利用や美観を妨げない位置に設置する必要があります。）

※場所等については市に事前にご相談ください。

！こんなことに注意が必要です！

- ・一部の限られた人の楽しみになってしまうと、「公園の私有化」の問題が起こりかねません。「みんなの花壇」にするための工夫が必要です。
- ・花壇は全体の見た目も大切です。発砲スチロールの箱などの使用は避けましょう。

【公園愛護会のピーアール活動】

公園愛護会のピーアールは発展的な活動のひとつです。

「地域の人たちに活動を理解してもらう」、「活動への新たな参加者を増やす」、「ピーアール不足による不要なトラブルを回避する」ためにもピーアールを行うようにしてください。

ピーアールする3つの段階

Ⅰ 活動前のピーアール

参加者を募集することができるだけではなく、公園利用者に公園（の一部）を利用できない日時を知らせる役目にもなります。

Ⅱ 活動中のピーアール

当日、黙々と熱心に活動していても、公園愛護会の存在を知らない人にとっては「誰が何のためにしているのかわからない」ことがあります。誰が何のためにに行っているのかをのぼり旗などを使ってさりげなくピーアールしましょう。

また、活動に参加しないからといって、厳しく接するのではなく、やさしく接する気持ちを持ちましょう。参加したくても、きっかけがない人も多くいるのではないのでしょうか。

Ⅲ活動後の報告

大きな活動が終わったあとや、年度の最後に「こんなことをやりました、こんな人が参加してくれました」といった報告をまとめて、公園内に掲示したり、町内会・自治会の回覧板などで紹介しましょう。活動報告をとおして公園愛護活動に興味を持ち、参加者が増えることも期待できます。

年度末には会計報告も公開することにより、無用な金銭のトラブルを未然に回避することができます。



《市への手続きと報告》

①公園愛護会登録申請書

公園愛護会を結成したときに提出します。

②公園愛護会会員等変更届出

公園愛護会長や役員の変更、規約の変更があったときに提出します。

規約の変更がある場合は、規約も合わせて提出してください。

③活動報告書

公園愛護会の活動状況の報告として年1回の提出をお願いします。

活動報告には次のことを記載してください。

- ・活動状況【定例活動日】
- ・活動回数（それぞれの回の参加者人数の総計をお書きください。概数で結構です。）
- ・活動内容
- ・特記事項（任意：日々の活動で気が付いたこと等を記載してください）

④活動計画書

公園愛護会の活動予定を年度末に提出をお願いします。

活動計画には次のことを記載してください。

- ・活動予定内容

⑤休止・解散届

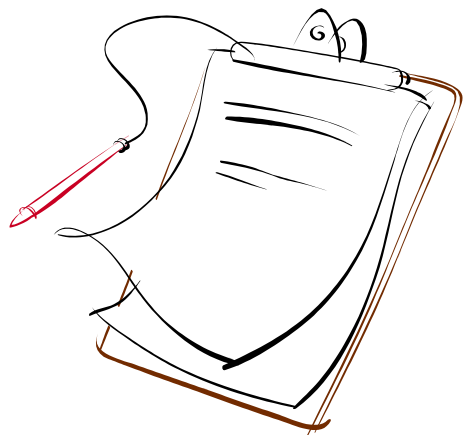
公園が工事などで全面的に長期間閉鎖され、公園愛護活動が出来ない場合に休止の届出を行うほか、公園愛護会が解散するときに提出します。

⑥市からの支援と報奨金

公園愛護会の活動に必要な清掃用具やゴミ袋は市から貸出または支給することができますので、必要なものと数をご連絡ください。その他、技術的アドバイスが必要な時やお困りの事は随時市へご相談ください。

活動支援の目的で、年度末の活動報告に基づき、活動面積に応じて5月末までに報奨金をお支払いいたします。

報奨金の決定方法は、基本額を18,000円とし、活動面積1㎡につき15円を乗じて算出されたものを1公園当たりの報奨金の上限とします。なお、限度額は年額100,000円となります。



～虫について～

①害虫（毛虫）について

公園の樹木に毛虫などの害虫が発生すると、その姿から「すぐに駆除してほしい。殺虫剤をまいてほしい」という市民の皆さんからの要望が寄せられます。

平成15年度に農薬取締法が改正され、公園でも農薬（殺虫剤も農薬の一部です）は原則使わないようにしており、止むを得ない場合に限り必要最低限で使用するようになっています。

公園愛護会の皆様においては、農薬（殺虫剤）を使った害虫の駆除は行わないでください。

大量に害虫が発生した場合は、市までご連絡をお願いいたします。

農薬を使わない駆除方法

毛虫が卵または幼生で1箇所群生しているとき、枝ごと切り取ることで効果的に駆除することが出来ます。

こんな虫には気をつけて

「要注意」の毛虫は、大きくなるほど手に負えなくなることがあります。そんな場合は無理に駆除せず市にご連絡ください。

チャドクガ

発生時期：4～5月頃と8月～9月頃

いる所：ツバキ、サザンカ、

特徴：幼虫は葉の裏に群生する

被害：激しいかゆみ。卵の殻でもかぶれ

イラガ

発生時期：6月～10月

いる所：サクラ、ウメ、カエデ、ヒメシャラ等、ヤナギ等

特徴：とげを持つ毛虫。集団で食害

被害：とげに刺されると鋭い痛み

【害のない毛虫もいます】

嫌われ者の毛虫ですが、毒などがあるものはほんの一部の種類だけです。公園の利用影響がない所に出た毛虫たちは「自然の一部」ということで、そっとしておいていただけないでしょうか？

②ハチについて

ハチは、6月頃から巣を作り始め、10月頃まで活動しますが、9月頃になると巣が大きくなり攻撃性が強くなるため、ハチに刺される事故も多くなります。

ツツジの植え込みの中や木の枝の茂みの陰など一見わかりにくい場所に巣がある場合が多いので、植え込みや茂みからハチが出入りしていないかよく見てから、活動を始めるようにしてください。

また、ハチの巣を見つけた場合は、市へご連絡ください。

【ハチに刺されないための対策】

- 巣のそばに近寄らない。
- ハチは黒色に対して攻撃性を示すので、できるだけ白色系統の衣服と帽子を着用する。
- 強い香りのする香料はつけない。
- ハチがそばに飛んできたら、追い払うなどの動きはハチを余計に刺激するので、姿勢を低くして静かにその場を離れる。

【ハチに刺されたときは】

- すぐにその場を離れる。
- 水で洗い流し、冷やし、抗ヒスタミン軟膏を塗る。
- 気分が悪くなったり、動悸がする場合はすぐに病院へ。

【主なハチの種類】

スズメバチ

巣の形状：ボール状。縞模様がある。

出入口は1箇所。

特徴：攻撃性が高い

アシナガバチ

巣の形状：お椀を伏せたような形

巣は穴がたくさんある。

特徴：攻撃性は低い。

